

会 長 〒 560-0085 豊中市上新田4-16-1-33 合原 一夫 06-6833-9227
 事務局 〒 577-0054 東大阪市高井田元町1-14-2 岡本 至弘 06-6788-2796
 編集室 〒 586-0039 河内長野市楠ヶ丘11-18 中川 良三 0721-65-0348
 HomePage担当 〒 577-0054 大阪市住之江区南港中3-3-31-520 坪井 仁志 06-6613-2836

和 7 年 6 月 (2025 年) No.714

課題コンテスト「明」の結果発表

道下氏の「明日への祈り」が最優秀賞

皆さん奮闘されて 11 作品が応募

毎年恒例の課題コンテストは、宮中歌会始めの儀で、翌年の「御題」に合わせて映像作品を競作するもので、今までにも良い作品が生まれてきました。

今年の御題が「明」だったので、案外難しい御題だと思い、出品者も数人ぐらいいかなあと悲観的に見ていましたが、何と、11 本の作品が出品され、うれしい悲鳴が上がりました。

まず、上映順をくじ引きで決め、順番に上映して、出席者全員の投票で順位を決めました。一番良いと思う 1 位には 3 点、2 位は 2 点、3 位は 1 点の配点で総合点を決めるのが慣わしです。

結果発表

・最優秀賞	「明日への祈り」	08 分 58 秒	BD	道下敏行
・優秀賞	「千本鳥居の明かり」	03 分 31 秒	USB	生田幸靖
・秀作	「ファラオの築いた不滅の文明」	10 分 48 秒	BD	高田幸夫
・努力賞	「明日への躍進」	10 分 30 秒	BD	山本正夢
・努力賞	「今を生きる・今村明美さん」	09 分 33 秒	BD	合原一夫
・努力賞	「枚岡燈明祭」	06 分 30 秒	BD	江村一郎
・努力賞	「清明桜」	07 分 15 秒	BD	高瀬辰雄
・努力賞	「風光明媚を行く」	04 分 20 秒	BD	坪井仁志
・努力賞	「明日へのともしび」	07 分 55 秒	BD	上総秀隆
・努力賞	「早春の道明寺天満宮」	09 分 00 秒	BD	宮崎紀代子
・努力賞	「明日香村を巡って」	07 分 30 秒	BD	中川良三

以上で、記念品は 6 月例会でお渡しいたします。出品者の皆さん、ご苦勞様でした。次は 7 月例会で 5 月に行われた関ヶ原合戦史跡巡り撮影会作品の公開コンテストです。そろそろ作品創りの構想・編集に取り掛かって下さい。

6 月例会のお知らせ

第 4 土曜日 28 日 13 時より。東大阪市立市民多目的センター (JR・近鉄「河内永和」)

担当世話役さん早めにお越しください。

課題コン総評

道下氏の「明日への祈り」、生田氏の「千本鳥居の明かり」そして高田氏の「ファラオの築いた不滅の文明」以上3作品は、いずれも作品の個性が出ていて、良い作品揃いでした。下記の OMC フェスティバルと大阪アマチュア映像祭への出品候補作品が出来ました。山本さんの「明日への躍進」関西万博の情景を丹念に撮られていて、まだ行ってない人の良きガイドとなり感謝です。坪井さんの「風光明媚に行く」、思い出のアルバムから、以前旅行したことがある各地での写真や動画で夫婦の旅を回想するという筋書きは、観客を納得させるものがあり良かったです。私の「今を生きる・今村明美さん」は、高齢者が生き生きとして毎日を楽しんでいる人生を描いたものですが、一方から見れば平凡すぎて、何か大きな出来事でもあれば、と思う方が多かったかもしれません。高瀬さんの「清明桜」、題名は清明桜ですが、桜が出番を迎えるまでに平安時代の陰陽師、安倍晴明を祀る清明神社の紹介映像カットが多く出ていて清明神社そのものを描いておられます。しかし立派な桜でした。

江村さんの「枚岡燈明祭」、平岡神社のお祭りの描写ですが、江村さんらしい描き方は流石です。越中おわらの一行が境内で踊りを奉納する場面は、祭りに色どりと、しっとり感を醸し出して良い雰囲気を出していました。

上総さんの「明日へのともしび」、堺市大仙公園で行われた万灯会の準備から点灯までをインタビューを交えて記録されたもの。雰囲気がよく描かれていた。宮崎さんの「早春の道明寺天満宮」努力作だがナレーションがBGMに負けていたのが残念。中川氏の「明日香村を巡って」、高度な技術で飛鳥の歴史を紹介。視聴覚教材となりそう。



5月例会レポート

5月例会は24日13時より、東大阪市立市民多目的センターにて開催。課題コンの作品の集まりが懸念されたが11本の出品で盛り上がった。結果は前掲の通り。休憩をはさんで一般作品7本が上映されたが、終了が17時を少し回って会場側より注意を受けた。

- 運営担当：司会 岡本、書記 高瀬、YouTube 関係 中川、映写 中川、
メモリー記録 江村、受付・照明 宮崎、森下の各氏
- 出席者：生田、岩井、植村、江村、大久保、岡本、上総、合原、高瀬、
高田、坪井、中川、道下、宮崎、森下、山本の16氏

上映作品（今月の書記は高瀬）

1. 霧ヶ峰・蓼科 誰もいない霧に包まれた朝 道下敏行 3分51秒 BD
(作者コメント)

霧ヶ峰・蓼科の朝をタイムラプスやドローンを使い撮影した。霧ヶ峰は雨上がりの翌日は霧が深く幻想的な世界が広がり、日が登るにつれ、南アルプス、中央アルプス、富士山等が美しい。蓼科の御射鹿池は東山魁夷（ひがしやまかい）の緑響くモチーフ（絵）になった場所で雪溶け水や氷が流れ込み、つがいの鴨が印象的な美しい映像が撮影できた。



(書記コメント)

霧が流れ、雲が流れる幻想的な霧ヶ峰の朝のシーン、思わず引き込まれる。陽が昇るにつ

れ、富士山、南アルプス、北アルプス、御嶽山など雪を冠った山々が美しい姿を現わす。そして東山魁夷の有名な画のモチーフになった御射鹿池の静寂と鴨のつがいの印象的なシーンで締めくくられている。「美しい映像が撮影できた」と記されているように、作者会心の映像と言えます。なお雲や霧の流れるシーンは「タイムラプスを使って撮影」とされているが、タイムラプスで撮影するには、ビデオスピードV90以上のハイクラスのSDカードが必要かと思われます？

2. 第35回東大阪市民文化芸術祭 岡本至弘 13分20秒 BD

(作者コメント)

毎年実施されている「東大阪市民文化芸術祭」に今年も出演した。音頭サークル「壺の集い」の模様を生田会員の協力により撮影していただいたものです。



(書記コメント)

東大阪市民文化芸術祭の「壺の集い」の踊りの作品。制作者の岡本氏は舞台に出演されており、撮影は生田氏で、2台のカメラで撮られたとか。輪になって、出演者は楽しそうに踊られているが、舞台全体に大きな変化がないため、全景を主体にアップを加え、撮影、編集に苦心された様子が窺える。

3. 西から東からコンニチわ 合原一夫 15分 DVD

(作者コメント)

Expo70の年、勤めていた会社の寝屋川社宅のわが家には郷里の九州や転勤前に勤めていた東京の知人など大勢の訪問客を迎えた。万博見物のためである。Expo70の一大イベントは全国から人を引き寄せた。当時テンヤワンヤだった我が家の対応ぶりを振りかえると、よくもあれだけの事をやっていたかと感慨深い。この作品の一部はNHKで取り上げられ全国放送されたことがある。



(書記コメント)

前半は1970年の万博で、家に大勢の訪問客が訪れ、テンヤワンヤされているご家族の様子が詳しく描かれている。後半はやっと落ち着き、自分たちで会場に行かれた。思い出多い、テレビ放送もされた当時の映像は貴重な宝物といえます。

4. ギリヤークニケ崎 魂の踊り 高瀬辰雄 13分30秒 BD

(作者コメント)

大道芸人、ギリヤークニケ崎の街頭での公演を平成23年、令和元年、同7年の3回撮影したものを一つの作品にまとめてみた。「鬼の踊り」から大震災を契機に「祈りの踊り」に、そして最近の老いと病魔に立ち向かう姿は「魂の踊り」と称されているようです。なお「ギリヤークニケ崎」は芸名で本名は「ニケ崎勝見」、出身は北海道。



5. 玉祖神社 江村一郎 7分40秒 BD

(作者コメント)

玉祖明神または高安明神と称され、古来高安十三村の産土神（うぶすながみ）で、周防国（山口）から和銅三年（710年）勧請されたと伝え、玉造部の人々が多く住んでいたところからその祖神を祀っていたと考えられた。十三峠への登り口にあたり、大阪と大和を結ぶ要衝にあり、境内には慶長九年銘の石灯籠、府天然記念物の大樟樹がある。



（書記コメント）

地元八尾市の玉祖（たまのおや）神社を時間をかけて撮影、制作されている。昔、勾玉などを製作していた玉造部が住んでいた地区であることや天然記念物、大樟樹、常世の長鳴鶏、豊臣秀頼寄進の石灯籠、北条時政の制札、天誅組に加わった国学者、伴林光平の墓など神社にまつわるあらゆるものが紹介されている。加えて冬の大とんど祭りや、夏の太鼓台など動きのある映像でテンポを持たせ、特に子供たちを作者独特の表現で描かれている。動きのある二つの神事にテロップの説明がないのは、あえて入れられていないのでしょうか？

6. 我が家の太陽光発電（改作版） 植村朝一 4分45秒 DVD

（作者コメント）

太陽光発電の設置の話が我が家にも舞い込んできたので、設置工事を依頼し、その設置工程をビデオで追って作品にした。その後、プレゼンの資料として活用したいと云う話があった。しかし、この作品を制作した時と、12年以上経過した現在では太陽光発電の電気の買取価格が異なってきた。その内容を作品の中に直に組み込むことが難しいので、解説文を作品の前に付け加え、改作した。



（書記コメント）

太陽光発電の導入の商談から設置工事という見慣れない工程を落ち着いたカメラワークで撮られ、屋根に取り付ける工事の様様や発電、売電、買電などの仕組みを簡潔にまとめられている。作品をプレゼン用にというお話があったのも頷けます。最初に制作されたのが12年以上前、やはり電力事情も変わってきているとかで、この先、機器の耐久性なども気になりますね。

7 親子展 上総秀隆 3分55秒 BD

（書記コメント）

京都花見小路の画廊「楽空間 祇をん小西」で行なわれた宮絵師、安川如風氏と娘さんの截金作家、安川幸聖理（みまり）さんの親子展の展示作品を中心に、幸聖理さんのインタビューなどを加えられ、力が入った作品となっている。幸聖理さんは朽ちた木に輝く金箔で描く独自のアート作家と知られているが、截金技法はあまり知られていないので、展示作品ひとつずつ、もう少し詳しく、無理かも知れませんが、製作の様子などを紹介してもらえれば、よく分かるのではないのでしょうか。

